

2022年

9月 ほけんだより

中宮まぶね保育園

朝夕は過ごしやすくなってきましたが、日中はまだまだ暑い日が続いています。夏の疲れが出て、体調を崩しやすくなる時期です。生活リズムを整えて、残暑を乗り越えましょう。

また、活動しやすい気候になるので、秋の気配を感じながら、戸外でたくさん遊べると冬に向けた体力作りにつながります。体を慣らし、寒さに負けない体力作りを心掛けましょう。



9月9日は救急の日

小児救急電話相談 (#8000)

小児科医の支援体制のもとに看護師が相談に応じます。夜間の子どもの急病時、病院へ行ったほうがよいかどうか、判断に迷った時にご利用ください。

開設時間 19時から翌朝8時まで(365日)

電話番号 #8000 (NTTプッシュ回線・携帯電話)

又は、06-6765-3650 (ダイヤル回線、IP電話)

防災週間(8月30日~9月5日)

9月1日は防災の日です。万が一の時に備え、非常食や水、懐中電灯などを用意しておきましょう。また、お子さんにも火事や地震が起こったらどのように行動すべきか、煙を吸わずに逃げる方法や地震の時はテーブルの下に隠れるなど、日頃から繰り返し話し、緊急時に備えるようにしたいですね。

8月に報告があった感染症

溶連菌感染症 5名
アデノウイルス感染症 1名
ヘルパンギーナ 3名
手足口病 6名

子どもの家庭内事故を防ごう!

転落・転倒

乳児は全身に対して頭が大きく重い
ため、転落・転倒すると頭を強く
打ちやすいです。

屋外では階段や遊具、室内でも階段、ベッド、イスやソファなどから転落する恐れがありますので、十分に気を配る必要があります。

2・3歳になると自分で踏み台を使って上れる場所も増えますので、高さのあるベランダや窓からの転落も起こります。常に家庭内の安全チェックをするように心がけましょう。



窒息・誤嚥

硬い豆やナッツ類など、硬くてかみ砕く必要のある食品は5歳以下の子どもには食べさせないようにしましょう。喉頭や気管に詰まると窒息しやすく、大変危険です。小さく砕いた場合でも、気管に入りこんでしまうと肺炎や気管支炎になるリスクがあります。

食事中は姿勢を良くし、食べることに集中させましょう。物を口に入れたままで、走ったり、笑ったり、泣いたり、声を出したりすると、誤って吸引し、窒息・誤嚥するリスクがあります。

熱傷

熱傷は痛みが強く、やけどのあとなど見た目の後遺症を残すことがあるため、こどもにとってつらい事故のひとつです。大人が十分気を配って熱傷を防ぎましょう。

熱傷は熱い液体が原因で起こることが多いため、ポット、コーヒーマーカー、カップ麺、味噌汁、お茶などの取扱いには注意が必要です。

それ以外にも、炊飯器の蒸気口に手を当てる、炊きたてご飯に手を突っ込む、魚焼きグリルのふたに触る、コンセントに差し込めるプラグをなめるなど、こどもの思わぬ行動が熱傷へとつながります。

8月は手足口病が流行しました。

手足口病は、口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる感染症です。子どもを中心に、主に夏に流行します。感染症発生動向調査によると、例年、報告数の90%前後を5歳以下の乳幼児が占めています。

一般的な感染対策は、接触感染を予防するために手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。